

みなさんこんにちは、【S】です。

突然ですが、問題です。「情けは人のためならず」の正しい意味は（ア）（イ）どっち？

（ア）人に情けを掛けることは、その人のためにならない。

（イ）人に情けを掛けるのは、人のためにではない。自分のためである。

正解は（イ）です。このことわざは、文化庁が実施した調査で日本人の半数近くの人が（ア）と答えた「誤用ことわざの横綱」とされているものです。

広辞苑第六版には「人に思いやりのある行動をすると、巡り巡って自分にいいことが起こる」と書いてありますが、これは岩手が生んだ偉人「新渡戸稲造」が作った詩の一部分です。

その詩が『一日一言』の「4月23日 恩を施しては忘れよ」に書かれています。

「施せし情けは人の為ならず おのがこゝろの慰めと知れ

我れ人につけし恵は忘れても ひとの恩をば長く忘るな」

（『新訳 一日一言 「武士道」を貫いて生きるための 366 の格言集』新渡戸稲造著より）

情けは他人のためではなく自分のためにかかるもの。だから自分がした良いことは忘れてもいい。でも、人から良くしてもらったことは絶対に忘れちゃいけないよ、という意味です。

これを心理学の面から探っているのが、『ホンマでっかTV』（フジテレビ）でおなじみの心理学者の植木理恵先生。

親切な行為をすることで自分の中の「自己肯定感」が高まり、自分のことを愛する人間になれる。自己肯定感とは主観的幸福度を著しく高める。心理学ではその感情を「多幸福感（幸せを多く得られているような感情）」という。

（『フシギなくらい見えてくる！本当に分かる心理学』植木理恵 より）

電車やバスで席を譲るとか募金をしてみるなど、親切な行為をすることで自分が気持ちよくなる経験は、多くの人があると思います。

このときに生まれる「オレってけっこうイイ奴♪」「今日もいいことしたなあ♪」といった気持ちが「自己肯定感」であり、「自分を好きになる」ことに大きな役割を果たすのです。つまり、情けをもって人のために行動すると、「自己肯定感」が高まり、自分に自信を持てる力を育むのだそうです。

しかし、「人のために行動しよう」と思ったけれども、結局行動しなかった時。つまり、自分自身の心を裏切った時、人は「仕方ないだろ…」「だって、あの時は…」という風に「言い訳」を始めます。そして、他人を敵視し始め、最後は「人に優しくできない自分はなんてダメなんだろう」「俺は最低な人間だ…」と自分自身を敵視し始めてしまうのです。

他人を嫌うこと・いじめることは、いつの間にか自分を深く傷つけることになるのだ。だから、人に優しく関わるチャンスを無視したり、ないがしろにしたりすると、結局は自分が損をする。いじめっ子は、少しずつ自分を嫌いになり、人生が嫌いになる。本人にとって損なのだ。

(『フシギなくらい見えてくる！本当に分かる心理学』植木理恵 より)

人に尽くした優しさは、すぐに戻って来るとは限りません。戻ってこないかもしれません。だからこそ、見返りを期待するのではなく、「いつか返ってくるのかな、どこから返ってくるのかな」とのんびり静かにわくわくしながら生きていくのも、とても素敵な在り方であると思います。

みなさんに紹介するつもりで書いていましたが、いつのまにか私自身への戒めとして書いていた第743号でした。

ちなみに、最初の問題の(ア)の意味として使われることわざは「情けが仇」です。

子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★